

7 定点把握対象疾患の病原体検出情報

1) インフルエンザ

477 検体が採取された。検出されたインフルエンザウイルスは、AH1pdm09 亜型が 195 件、AH3 亜型が 74 件、B 型が 184 件であった。B 型についてはすべてビクトリア系統であった(表 II-1-1)。

2023 年-2024 年シーズンは、シーズン開始当初は AH1pdm09 亜型及び AH3 亜型が混在していたが、1 月以降 B 型(ビクトリア系統)の検出数が増加した。2024 年-2025 年シーズンは、シーズン開始当初の 9 月から 12 月までは AH1pdm09 亜型が検出数の大部分を占めていた(図 II-29-1)。

表 II-1-1 インフルエンザウイルスの検出状況 (2024 年)

臨床診断名	採取月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	その他のウイルス
インフルエンザ	検体数	130	75	59	28	9	5	4	5	11	10	43	98	477	新型コロナ(14), RS(1), ドミノウイルス(2), バライブルエンザ 3(1), バライブルエンザ 4(1), コロナNL63(1), エンテロウイルス(1)
	インフルエンザ AH1pdm09	20	5	4	5	6	4	1	3	8	7	40	92	195	
	インフルエンザ AH3	50	8	6	2	2		3	1			2	74		
	インフルエンザ B(ビクトリア)	55	59	46	19				2		2	1	184		

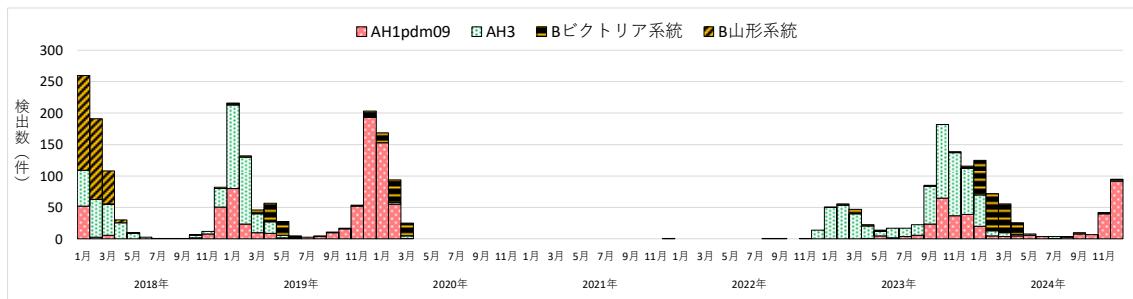


図 II-29-1 インフルエンザウイルスの検出状況 (2018 年~2024 年)

2) RS ウィルス感染症

18 検体が採取された。検出された RS ウィルスはサブグループ A が 9 件、サブグループ B が 1 件であった(表 II-1-2、図 II-30-1)。

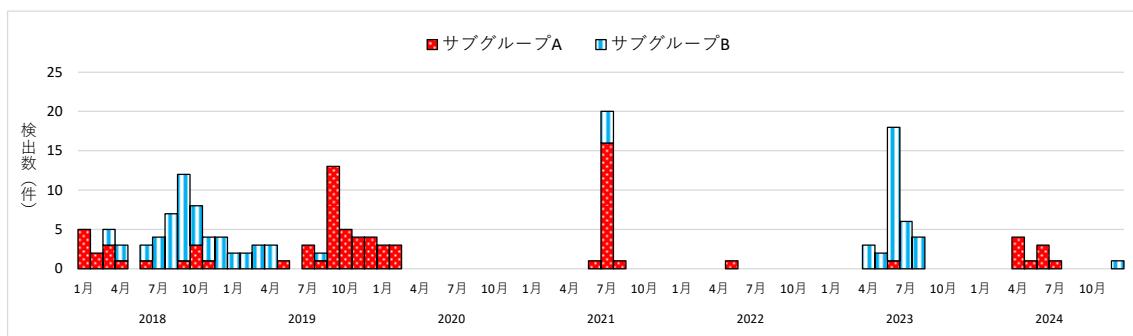


図 II-30-1 RS ウィルスの検出状況 (2018 年~2024 年)

3) 咽頭結膜熱

4 検体が採取された。検出されたアデノウイルスはアデノウイルス 3 型及びアデノウイルス(型別不能)がそれぞれ 1 件であった(表 II-1-2、図 II-31-1)。

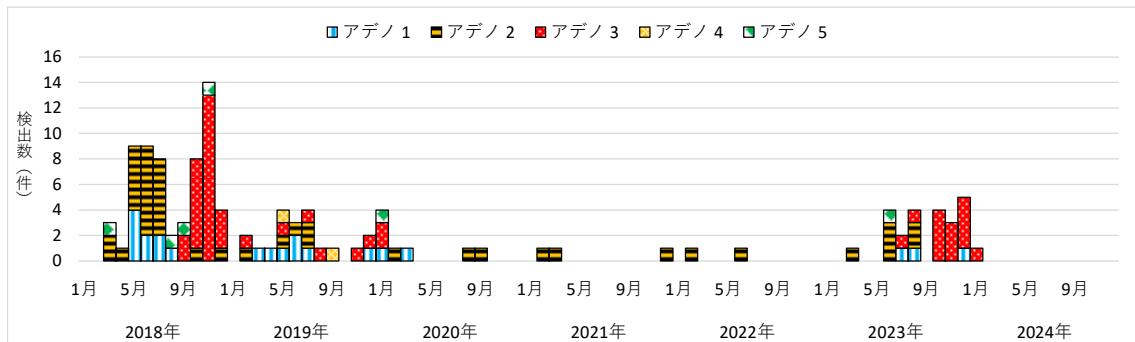


図 II-31-1 咽頭結膜熱からの主なアデノウイルスの検出状況（2018 年～2024 年）

4) A 群溶血性レンサ球菌感染症

5 月に 1 検体が採取され、*Streptococcus pyogenes* が分離された。T 型別/*emm* 型は T1/*emm*1.0 (M1_{UK} 株) であった。

5) 感染性胃腸炎

51 検体が採取された。検出された胃腸炎起因ウイルスはノロウイルスが 17 件、サポウイルスが 6 件、アストロウイルスが 3 件、アデノウイルス 41 型が 2 件、A 群ロタウイルスが 1 件であり、4 検体でノロウイルスとサポウイルスが重複して検出された。ノロウイルスの遺伝子群はすべて GII であった(表 II-1-2)。

6) 手足口病

72 検体が採取された。検出されたエンテロウイルスは、コクサッキーウイルス A 群 6 型が 28 件、コクサッキーウイルス A 群 16 型が 16 件、エンテロウイルス A71 型が 7 件、コクサッキーウイルス A 群 10 型が 5 件であった(表 II-1-2)。

2024 年は手足口病の検体が多く搬入され、春から夏にかけてコクサッキーウイルス A 群 6 型が、秋から冬にかけてはコクサッキーウイルス A 群 16 型が多く検出された(図 II-32-1)。

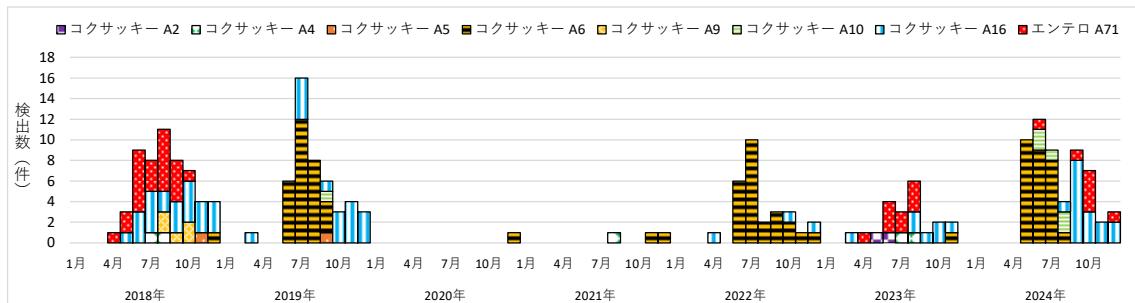


図 II-32-1 手足口病からの主なエンテロウイルスの検出状況（2018 年～2024 年）

7) 伝染性紅斑

4 検体が採取され、ヒトパルボウイルス B19 が 2 件検出された(表 II-1-2)。

8) 突発性発しん

8 検体が採取され、ヒトヘルペスウイルス 6 が 4 件、ヒトヘルペスウイルス 7 が 2 件検出された(表 II-1-2)。

9) ヘルパンギーナ

20 検体が採取された。検出されたエンテロウイルスは、コクサッキーウイルス A 群 6 型が 6 件、コクサッキーウイルス A 群 10 型が 3 件、コクサッキーウイルス A 群 4 型が 1 件であった。また、コクサッキーウイルス B 群 5 型及びエコーワイルス 11 型もそれぞれ 1 件検出された(表 II-1-2、図 II-33-1)。

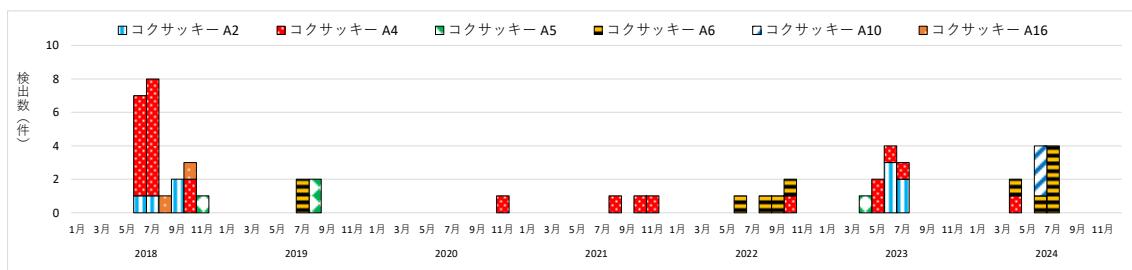


図 II-33-1 ヘルパンギーナからの主なエンテロウイルスの検出状況 (2018 年～2024 年)

10) 流行性角結膜炎

7 検体が採取された。検出されたアデノウイルスは、アデノウイルス 37 型が 3 件、アデノウイルス 3 型及びアデノウイルス 56 型がそれぞれ 1 件であった(表 II-1-2)。

11) 無菌性髄膜炎

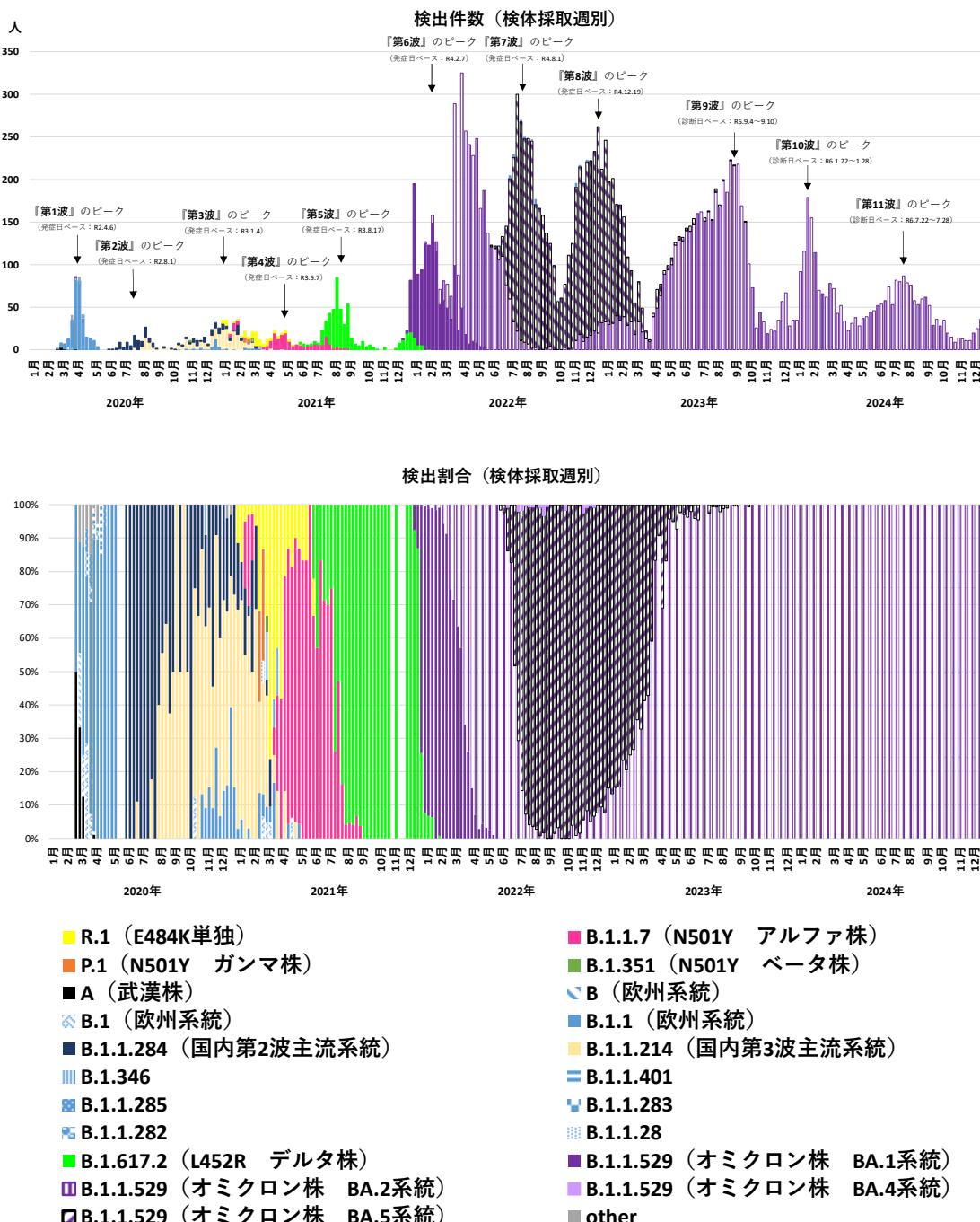
63 例 156 検体が採取され、32 例 74 検体から 76 件のウイルスが検出された。6 月を除き年間を通じて検体搬入があったが、ウイルスが検出されたのは 8 月～12 月に採取された検体であった。検出されたウイルスは、エコーワイルス 11 型が 13 例 34 件と最も多く、以下、エンテロウイルス A71 型が 5 例 10 件、コクサッキーウイルス B 群 3 型が 4 例 10 件、コクサッキーウイルス A 群 16 型が 3 例 4 件、エコーワイルス 18 型が 2 例 4 件、エンテロウイルス(型別不能)が 2 例 2 件、コクサッキーウイルス B 群 5 型が 1 例 3 件、コクサッキーウイルス B 群 2 型、エコーワイルス 30 型及びライノウイルスがそれぞれ 1 例 2 件、コクサッキーウイルス A 群 6 型、パレコウイルス及びインフルエンザウイルス AH1pdm09 亜型がそれぞれ 1 例 1 件であった。なお、エンテロウイルス A71 型とパレコウイルスが、ライノウイルスとコクサッキーウイルス A 群 6 型がそれぞれ同一検体から重複して検出された。また、エンテロウイルス(型別不能)については同一症例の異なる種類の検体からそれぞれエコーワイルス 11 型、エコーワイルス 18 型が検出された(表 II-1-2)。

**表 II-1-2 五類定点把握対象疾患(インフルエンザ及び新型コロナウイルス感染症を除く)
のウイルス検出状況(2024年)**

臨床診断名	検査月	検体合計数												その他のウイルス	
		1月 16	2月 6	3月 19	4月 15	5月 24	6月 35	7月 36	8月 32	9月 64	10月 58	11月 21	12月 14	累計 340	
RSウイルス 感染症	検体数			4	2	4	3				3	2	18		
RS(A)				4	1	3	1						9	パラインフルエンザ 3(2), ライノ(5)	
RS(B)												1	1		
咽頭結膜熱	検体数	1				3							4	アデノ nt(1), コク サッキー A10(1)	
アデノ 3		1										1			
感染性胃腸炎	検体数	8	5	8	1	4	5	8	2	4	1	2	3	51	
ノロ		5	2	6	1	1	1	1						17	
サボ		2		2		1		1						6	
アストロ			1			1								3	
ロタ (A)						1			1					1	
アデノ 41												1	2	(4), ライノ(6)	
手足口病	検体数	1					13	14	11	8	11	8	2	4	72
コクサッキー A6							10	9	8	1					28
コクサッキー A10							2	1	2						5
コクサッキー A16								1	8	3	2	2			16
エンテロ A71									1	4		1			7
伝染性紅斑	検体数							1	2		1				4
ヒトヘルペス B19								1	1						2
突発性発しん	検体数							3	2	2		1			8
ヒトヘルペス 6								1	2		1				4
ヒトヘルペス 7								1		1					2
ヘルパンギーナ	検体数			1	3		7	6		2			1	20	
コクサッキー A4					1		1	4							1
コクサッキー A6						1								6	
コクサッキー A10							3							3	
流行性 角結膜炎	検体数	1				2	1	2				1		7	
アデノ 3		1					1							1	
アデノ 37												1		3	
アデノ 56					1							1		1	
無菌性結膜炎	検体数	5	1	10	5	4		4	18	45	48	12	4	156	
コクサッキー A6									1					1	
コクサッキー A16									1					4	
コクサッキー B2									2					2	
コクサッキー B3										7	3			10	
コクサッキー B5									5	4	21	3	1	3	
エコー 11										3		1	1	34	
エコー 18										5	3	2	2	4	
エコー 30											2		2	2	
エンテロ A71										2				10	
エンテロ nt														2	
バレコ														1	
ライノ														2	
インフルエンザ AH1pdm09												1	1		

12) 新型コロナウイルス感染症

次世代シーケンサー(NGS)によるゲノム解析(県内医療機関(急性呼吸器感染症(病原体)サーベイランスの協力医療機関も含む)及び検査会社から提供された検体に基づく)によると、2023年4月以降オミクロン株のBA.2系統が流行の中心となり、2024年もBA.2系統による流行が継続していた(図II-34-1)。



図II-34-1 新型コロナウイルス ゲノム解析結果

2024年に検出された BA.2 系統を詳細に亜型で分類すると、1月から4月にかけては JN.1 系統が主流の亜型であったが、5月からは KP.3 系統が増加し、10月下旬にかけて主流の亜型であった。10月下旬以降は、KP.3.1.1 系統と XEC 系統が検出の大部分を占めるようになった(図 II-34-2)。

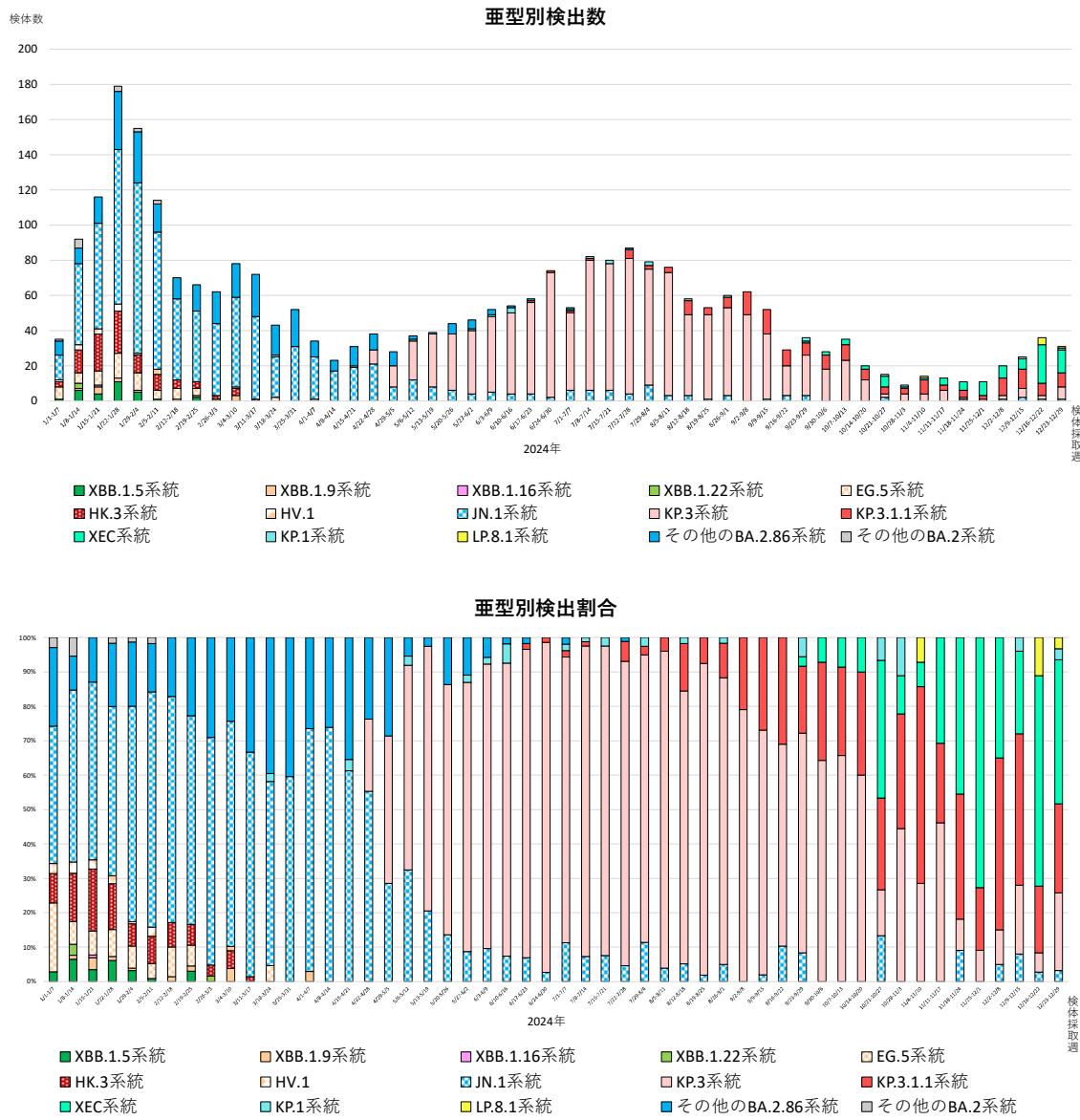


図 II-34-2 新型コロナウイルス亜型別検出状況(2024年)